

**製品名: SgK288 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17822**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	84kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ANKK1
別名	ANKK1; PKK2; SGK288; Ankyrin repeat and protein kinase domain-containing protein 1; Protein kinase PKK2; Sugen kinase 288; SgK288; X-kinase
遺伝子 ID	255239.0
SwissProt ID	Q8NFD2
免疫原	抗血清はヒト ANKK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

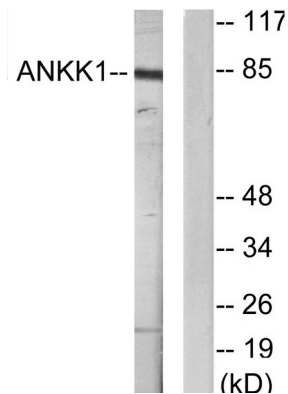
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー、およびシグナル伝達経路に関与するタンパ

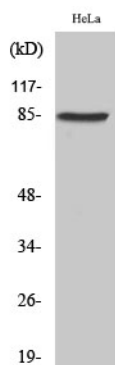
ク質キナーゼスーパーファミリーに属します。この遺伝子は、11番染色体のDRD2遺伝子(遺伝子ID: 1813)と密接に関連しており、よく研究されている制限酵素断片長多型(RFLP)であるTaqIAは、当初DRD2遺伝子と関連付けられていましたが、後にANKK1遺伝子(PMID: 18621654、15146457)のエクソン8に位置し、非保存的アミノ酸置換を引き起こすことが判明しました。この遺伝子が、以前Taq1A RFLPと関連付けられていた神経精神疾患に何らかの役割を果たしているかどうかは明らかではありません。[RefSeq提供、2009年9月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、類似性: 12個のANK繰り返しを含みます。、組織特異性: 脳で高く発現し、胎盤と脊髄で弱く発現します。、

## 研究分野

## 画像データ



ANKK1抗体を用いたHeLa細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



SgK288ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析